

# 米国陸軍使用について

2002年12月4日--米国陸軍は現在、飲料水の逆浸透（RO）処理に次亜塩素酸カルシウムの形で塩素を添加することで、再汚染の防止を図っている。逆浸透膜浄水装置（ROWPU）と呼ばれるこの浄水装置は、兵士と一緒に現場に行くことを想定した携帯型のシステムである。

MIOX Corporationは、アメリカ陸軍のTank Automotive Command (TACOM)から、既存および将来のすべてのROWPUシステムにおいて、次亜塩素酸カルシウムによる消毒をオンサイトでの混合酸化剤生成に置き換えることを決定した。

混合酸化剤生成装置は、塩と水と電解槽だけで必要なときに溶液を生成するので、可燃性の可能性がある次亜塩素酸カルシウムのような安全性の心配はありません。また、現場で生成するための原料である塩と水は世界中で手に入るため、陸軍は次亜塩素酸カルシウムを現場に輸送する必要がありません。さらに、この混合酸化剤溶液は、化学兵器や生物兵器にも効果があることが証明されており、米軍兵士の防護策としても有効である。また、混合酸化剤で処理した水には、次亜塩素酸カルシウムのような味や臭いがありません。また、次亜塩素酸カルシウムのような味やにおいもなく、後味の悪い化学物質を含む水を飲みたくない兵士が脱水症状に陥る心配もありません。

MIOX技術は現在、世界中の自治体で飲料水の殺菌に使用されています。MIOX消毒ペン」として知られるこの小型化技術は、2002年にアフガニスタンを含む世界各地の米海兵隊によって実地試験が行われ、2003年には軍や消費者に提供される予定である。ROWPUシステムのためのMIOXプロトタイプは、2003年1月までに完成する予定です。このユニットのフィールドでのデモンストレーションが成功すれば、MIOX殺菌システムはフィールドにあるすべてのROWPUに後付けされ、新しいユニットにも設計される。

参考リンク先

<https://www.waterworld.com/technologies/disinfection/article/16204083/us-army-contracts-with-miox-corp-for-water-purification>